

変化の激しい現代社会を生き抜く歯科医師の養成を目指して

—新潟大学歯学部歯学科の新カリキュラム2016について—

歯学部副学部長（学務担当） 小野 和 宏

近年、大学教育の質的転換が求められています。2008年12月に出された中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」では、「知識・理解」とともに、論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション・スキルなどの「汎用的技能」や、チームワーク、リーダーシップ、市民としての社会的責任などの「態度・志向性」、ならびに「統合的な学習経験と創造的思考力」が学士課程教育共通の学習成果としてあげられ、知識だけでなく、その活用力を備えた学生の育成が求められました。また、2012年8月に出された同答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」では、生涯学び続け、主体的に考える力を育成するために、より具体的な形で大学教育の質的転換が唱えられています。

一方、2013年11月に出された国立大学改革プランの一環として、各国立大学と文部科学省が意見交換を行い、研究水準、教育成果、産学連携などの客観的データにもとづき、各大学の強み・特色・社会的役割が整理されました。いわゆる、「ミッションの再定義」です。このなかで、新潟大学歯学部のミッションは、

- ・新潟大学の理念である自律と創生に基づき、基礎的な専門知識、深い教養、問題解決能力、基礎臨床能力を持ち、少子高齢化、グローバル化を迎えた現代社会・地域社会で活躍できる歯科医師・口腔保健福祉医療人、また、自ら研究課題を開拓し、独創的な研究を遂行できる研究者及び科学的基盤を持ち超高齢社会で指導者となる高度医療専門職業人の養成を積極的に推進する。
- ・新潟大学が推進している口腔のQOLの向上

を目指した4大基礎・臨床的研究（口腔保健・福祉学的研究、摂食嚥下研究、再生工学研究、口腔環境研究等）を始めとする各領域における研究の実績を活かして、新潟大学発となる研究シーズを元に、先端的で特色ある研究を推進し、新たな歯科医療技術の開発・実用化や歯科医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。

- ・集学的対応が不可欠な疾患や治療法に対応できる専門医の養成、周術期口腔機能管理をはじめとしたチーム医療の推進、有病・高齢者への対応や歯科再生医療の実践等の取組を通じて、新潟県等における地域歯科保健・医療及び人材育成の中核的役割を果たす。
- ・問題発見解決型学習等による少人数教育実施のノウハウ及び新たな教育評価法を開発・普及させるとともに、今後ますます増加する摂食嚥下障害患者の診療に取り組み、多職種連携による対処法・食事療法等に対応できる人材養成プログラムを構築し、国内外の人材養成モデルとなることを目指す。

と、されています。教育面では、「基礎的な専門知識、深い教養、問題解決能力、基礎臨床能力を持ち、少子高齢化、グローバル化を迎えた現代社会・地域社会で活躍できる」歯科医療従事者を養成すること、また「問題発見解決型学習等による少人数教育実施のノウハウ及び新たな教育評価法を開発・普及させる」とともに、「人材養成プログラムを構築し、国内外の人材養成モデルとなる」ことが謳われています。

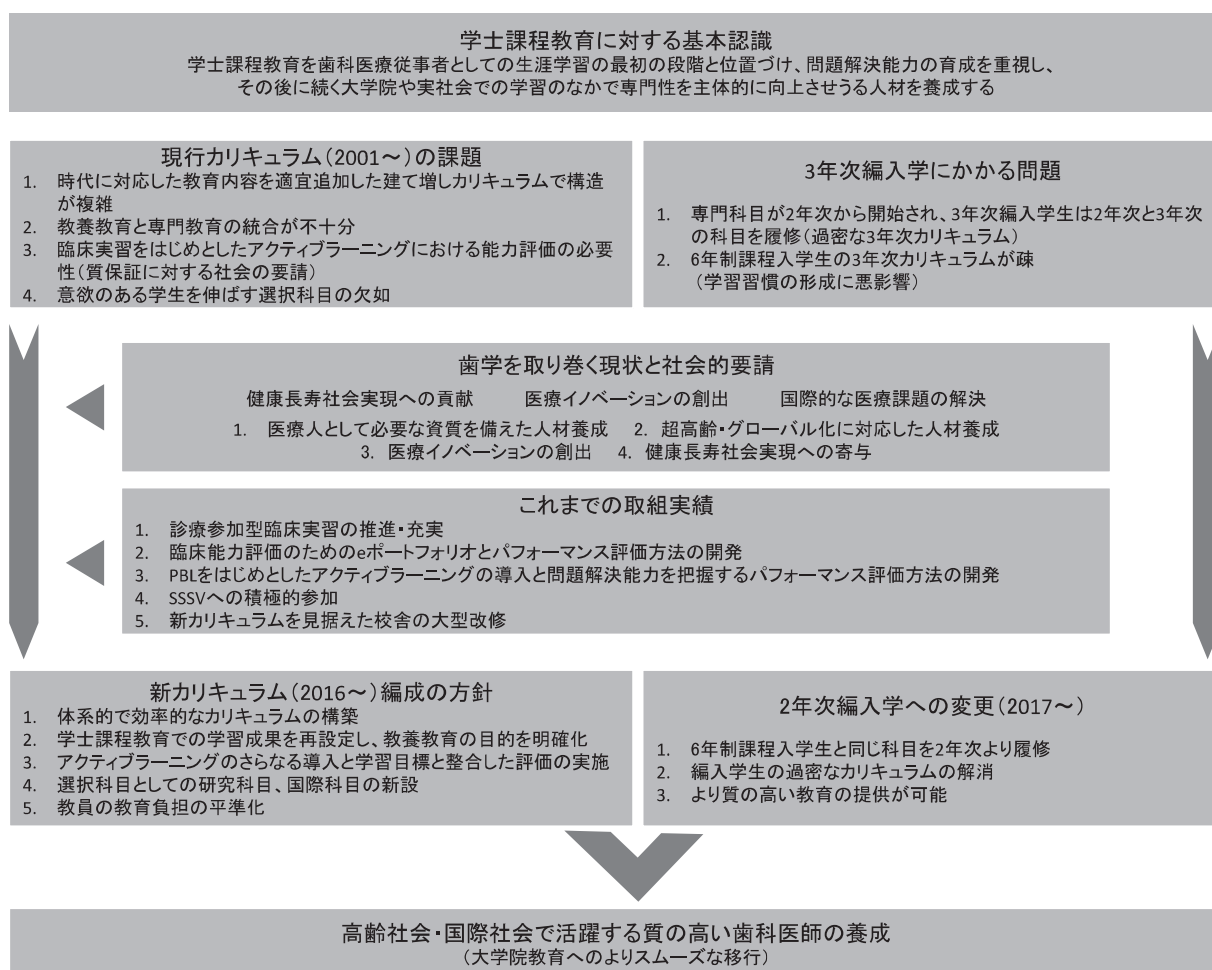
これまで、新潟大学歯学部では、「学士課程教育を歯科医療従事者としての生涯学習の最初の段

階と位置づけ、問題解決能力の育成を重視し、その後続く大学院や実社会での学習のなかで、専門性を主体的に向上させうる人材を養成する」という学士課程教育に対する基本認識のもと、分野間の垣根が低いという学部の特性を活かしながら、問題解決能力や歯科臨床能力の育成を目的として、PBLテュートリアルなどのアクティブラーニングの導入、診療参加型臨床実習の推進・充実とeポートフォリオの開発などを精力的に進めてきましたが、その成果がこの歯学部のミッションに結びついているといえます。

しかし、現行のカリキュラムに課題がないわけではありません。たとえば、時代に対応した教育内容を適宜追加した建て増しカリキュラムのためにカリキュラムの構造が複雑、3年次編入学生に対応するために2～3年次のカリキュラムが変則、教養教育の目的・目標が不明確、ほとんどの評価は知識を問うペーパーテスト、意欲のある学生を伸ばす仕組みがないなどがあげられます。

そこで、全国的な大学教育改革の動向を睨みつつ、歯学部の社会的役割を一層果たしていくために、2016年度から歯学科では新カリキュラムに移行することにしました。この新カリキュラムは、全教員の教育参加および大型改修がなされた校舎の有効活用を土台として、コンピテンシー・ベースのカリキュラム構築を目指すもので、既存科目の見直しと整理を行いつつ、アクティブラーニングのより積極的な導入と学習目標と整合した評価の実施、意欲のある学生を伸ばすために、選択科目としての研究科目や国際科目の新設、教養教育と専門教育を有機的に統合し、一般教養科目の選択の幅を拡大、3年次から2年次編入学への変更を編成の基本としています。また同時に、教員の教育責任を明確にすることにより、全国共用試験や歯科医師国家試験に向けて責任ある指導がなされるよう配慮しました。

以上、述べてきたことを下の図にまとめました。



新潟大学歯学部歯学科では、「変化の激しい現代社会のなかで、新たな諸課題に関係者と適切に連携しながら問題解決を図っていく能力を備え、全人的医療を実践できる高い歯科臨床能力を有する者」に学位を授与することとしています。このような人材を養成することは、単に教育プログラム、あるいは評価プランを組み立てるだけではなされません。カリキュラムを機能させるために、高い教育力と熱意をもった教員の存在が必要不可欠です。これまで、歯学部FD委員会ならび

に学務委員会が中心となって活発な教員研修を展開してきており、歯学部の教員は十分な能力・資質を備えています。新カリキュラムは、現代歯学教育のモデルたるものであり、新潟大学歯学部だからこそ実現可能であると信じています。

最後に、来年度からの新カリキュラム開始を前に、歯学部のミッション達成に向けて、教職員皆さまのご理解とご協力を、この場をお借りして心よりお願いいたします。

